

光化学オキシダントの測定結果（平成28年度）

光化学オキシダントは、窒素酸化物や炭化水素類が紫外線を受けて光化学反応を起こし、二次的に生成される酸化性物質で、光化学大気汚染（いわゆる光化学スモッグ）の原因物質とされ、その発生は気温、風向、風速、日射量等の気象条件に大きく左右されます。

平成27年度に、光化学オキシダントについて13測定局で測定した結果は、下表のとおりであり、いずれの測定局においても環境基準を達成できませんでした。

昼間（午前5時から午後8時まで）の1時間値の最高値が最も高かったのは、美濃加茂測定局の0.129ppm でした。

なお、平成28年度は、東濃西部地域で1回、「岐阜県大気汚染対策要綱」に基づく光化学スモッグ注意報の発令があった。

地域	測定局名	昼間測定日数 (日)	昼間測定時間 (時間)	昼間年平均値 (ppm)	昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた日数と その割合		昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた時間数 とその割合		昼間の 1時間値 の最高値 (ppm)	日最高 1時間値 の年平均 (ppm)	環境基準 の適否 適○否×	平成27年度	
					時間	%	日	%				昼間 年平均値 (ppm)	環境基準 の適否
岐阜	岐阜中央	365	5398	0.035	87	23.8	412	7.6	0.107	0.049	×	0.034	×
	岐阜南部	324	4760	0.033	68	21.0	357	7.5	0.100	0.047	×	0.033	×
	岐阜北部	365	5374	0.035	91	24.9	466	8.7	0.099	0.050	×	0.034	×
	各務原	365	5438	0.034	89	24.4	445	8.2	0.115	0.049	×	0.035	×
	本巣	197	2915	0.029	9	4.6	38	1.3	0.080	0.041	非適用		
	平均			0.034									0.034
西濃・羽島	羽島	351	5221	0.036	87	24.8	457	8.8	0.104	0.051	×	0.034	×
	大垣中央	365	5444	0.036	85	23.3	450	8.3	0.117	0.050	×	0.035	×
	大垣南部	365	5449	0.035	90	24.7	464	8.5	0.123	0.050	×	0.035	×
	平均			0.036								0.035	
可茂	美濃加茂	365	5449	0.034	103	28.2	545	10.0	0.129	0.052	×	0.034	×
東濃西部	笠原	231	3384	0.042	106	45.9	676	20.0	0.128	0.061	非適用	0.030	×
恵那・中津川	中津川	365	5437	0.032	77	21.1	400	7.4	0.110	0.049	×	0.032	×
飛騨	高山	358	5306	0.033	52	14.5	262	4.9	0.089	0.045	×	0.032	×
	乗鞍	302	4475	0.047	67	22.2	357	8.0	0.089	0.053	非適用	0.043	非適用
	県平均			0.034								0.033	

備考) 1 県環境管理課調べ

2 昼間は、午前5時から午後8時までを示す

3 環境基準に適合しているとは、1時間値が0.06ppm以下(0.06ppmを超えた時間数がゼロ)であることを示す

4 県平均に、本巣測定局、笠原測定局、乗鞍測定局は含まない